

令和4年3月29日

## 鹿児島県合同輸血療法委員会活動実績報告（2019年度～2021年度）

### 2019（令和元）年度

#### 1.鹿児島県合同輸血療法委員会世話人会の開催

- ・3回開催
- ・中小医療機関、在宅輸血の多い鹿児島県における適正な輸血管理体制の構築および離島の中核病院におけるブラッドローテーション(以下、BR)による廃棄血削減への取り組み等について協議を行う。

#### 2.厚生労働省の「令和元年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業」活動

- ・研究課題名を「中小医療機関、在宅輸血の多い鹿児島県における適正な輸血管理体制の構築および離島の中核病院におけるBRによる廃棄血削減への取り組み」として研究計画書を提出し採用され活動を行う。

#### 3.厚生労働省「地域における包括的な輸血管理体制構築に関する研究班」活動

- ・提言書として「離島の中核病院における血液製剤利用に対して複数の連携医療機関が支援を行う運用の研究」を作成し、提出を行った。

#### 4.県内医療機関の輸血管理体制等についてのアンケート調査

- ・2017年から2018年に輸血製剤供給歴のある373施設にアンケートを送付し、177施設から回答を得た。アンケートの回答を元に以下の3つの事業を行った。
  - ① 南薩地区輸血療法に関する研究：講演会を開催し、参加は20施設40人
  - ② 輸血療法委員会設置推進の為に「最初の1歩CD」の作成、配布：約500枚配布
  - ③ 第10回令和元年度鹿児島県合同輸血療法懇話会開催：参加者158人

#### 5.離島の中核病院におけるBRによる廃棄血削減への取り組み

- ・恒温血液搬送冷蔵庫（以下、ATR）内にO型5本収納し、鹿児島県立大島病院内に設置し、全く使用しなかった場合は本土の連携4病院で使用する事で、安心・安全な血液の供給と廃棄血削減を目指した。
- ・本事業は厚生労働省科学研究「地域における包括的な輸血管理体制構築に関する研究班」で2019年7月9日から取り組んでいたが、ATRの搬送費について空路から海路へ変更する事で経費削減を図り、今後継続する際の見通しを立てた。

#### 6.鹿児島県合同輸血療法委員会看護部会の設置に向けて

- ・鹿児島県輸血看護師部会の発足
- ・3回開催

## 2020（令和2）年度

### 1. 鹿児島県合同輸血療法委員会世話人会の開催

- ・新型コロナウイルス感染症対策のために書面での開催を行った。

### 2. 「中小医療施設での輸血医療向上」を活動テーマとし、世話人による中小医療機関を対象とした講演会を実施した。

- ・看護部会も立ち上がり、世話人および看護部会からの講師にて Web 形式の講演会を開催した。28 施設 34 名の参加が得られた。

### 3. 「最初の 1 歩 CD」を活用した輸血療法委員会設置の普及啓発を行う。

- ・新たに「輸血ラウンド」のビデオを収載することで医療施設での輸血管理体制の充実を目指した。名称も「最初の 1 歩 CD/DVD」とし、県内輸血製剤供給歴のある全ての医療機関及び「鹿児島県の離島における院内血に関するアンケート調査」への回答に協力いただいた全ての医療機関に配布した。

### 4. 例年 2 月に開催していた「鹿児島県合同輸血療法懇話会」は、コロナ禍の影響で中止とした。

### 5. BR の継続

- ・昨年度鹿児島県立大島病院と本土の 4 医療機関で研究として行った ATR を用いた BR については、機器の購入、維持費の負担等についてまとまらず、実運用に発展させる前段階である試験的運用に至らず、課題を残した。

### 6. 厚生労働省の「令和 2 年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業」活動

- ・研究課題名を「鹿児島県に存在する様々な規模の離島における安心・安全で適正に血液製剤を使用する方策に関する研究—離島での血液製剤使用実態調査（緊急時院内採血による warm fresh whole blood 使用を含む）及び血液搬送装置 ATR を使用した離島間の緊急血液融通のバリデーション—」として研究計画書を提出し採用され活動を行う。

### 7. 鹿児島県内における院内血に関するアンケート調査

- ・鹿児島県 24 離島の 101 離島医療機関を対象とし 101 施設(回収率 100%)から回答が得られた。
- ・調査内容は、以下の通り
  - 1) 輸血を施行した各離島の人口、医療機関数
  - 2) 医療機関への日赤血の搬送時間
  - 3) 要輸血患者の当該医療機関での輸血の有無、他医療機関への搬送の有無
  - 4) 日赤血・院内血の輸血患者数
  - 5) 院内日赤血の在庫数
  - 6) 院内血供血者の対象と要請方法、院内血完成までの所用時間、供血者の条件、施行検査、照射の有無、院内採血回数
  - 7) 院内血輸血をした患者情報（基礎疾患、院内血輸血の理由、年齢、検査値、日赤

血の使用単位数、他の治療法、転帰

8) 院内血輸血についての意見聴取

8. ATR を使用した離島間の緊急血液融通のバリデーション

- ・喜界島は人口 7,212 人の離島で、奄美大島からは 20km の距離にあるが、本土からは 380km の遠距離にある。
- ・「JAC が飛ばない時間」、「ドクターヘリが飛ばない時間」における喜界島への緊急血液融通が鹿児島県立大島病院から可能か否か、ATR に模擬血液を載せてバリデーションを行った。
- ・関係各社の協力を得た結果、喜界島への血液供給に要する時間は、9～17 時間（平均 15.9 時間）から、奄美大島から喜界島への血液緊急融通で 5.7 時間へと 64% の時間短縮が可能となることがわかった。

9. 鹿児島県合同輸血療法委員会看護師部会の開催

- ・ 3 回開催

2021（令和 3）年度

1. 鹿児島県合同輸血療法委員会世話人会の開催

- ・ コロナ禍の影響で、Web（オンライン）開催とした。

2. 厚生労働省の「令和 3 年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業」活動

- ・ 研究課題名を「鹿児島県における（在宅輸血/院外輸血）の現状把握と基盤整備」として研究計画書を提出したが採用されず。

3. 「中小医療施設での輸血医療向上」を活動テーマとし、世話人等による中小医療機関を対象とした講演会を継続することとした。

- ・ 輸血を担当する看護師、輸血検査や輸血管理を担当している臨床検査技師および輸血認定医師である世話人が講師となり、講演を実施した。参加者は、57 人。

4. 他県合同輸血療法委員会への講演

- ・ 代表世話人が「佐賀県合同輸血療法委員会」に招かれて、特別講演を行う。

5. 第 11 回鹿児島県合同輸血療法懇話会の開催

- ・ コロナ禍の影響で、初めての Web 開催を行う。
- ・ 参加者は、106 名。

6. 鹿児島県合同輸血療法委員会看護師部会の開催

- ・ 2 回開催